

第1回人材確保対策ワーキンググループ・ 第1回外国介護人材マッチング等支援ワーキンググループ報告

講義 (名古屋出入国在留管理局富山出張所所長/首席審査官 木下真由美氏)

報告 (1)令和7年度介護特定技能外国人マッチングから定着までの一体支援事業について

7割程度の事業所が外国人の雇用予定がないことから外国人未採用施設を対象に採用から定着まで一体的に支援(令和6年度実績 ミャンマー10名、ネパール2名)

「Digi-PoC TOYAMA(デジポックとやま)」県デジタル化推進室と射水市との共催による介護事業所向けスポットワーク活用セミナー

(2)富山県介護助手制度普及促進事業費補助金の新設について

半分近くの事業所が「介護助手の雇用予定なし」としていることから市町村による介護事業所への働きかけを推進するため

構成団体における福祉人材確保の現状・課題および提案・要望等について(抜粋)

1 福祉人材確保の担当部署や担当者(回答21) 設けている:13、設けていない:8

2 団体の会員形態等 ①富山県社会福祉協議会 57人,108団体,1044事業所 ②富山県介護福祉士会 1575人 ③富山県老人福祉施設協議会 173事業所
④富山県社会福祉法人経営者協議会 127法人 ⑤富山県介護福祉士養成校協会2法人 ⑥介護労働安定センター 2人,115法人

3 市町村における外国人介護人材の雇用状況の把握(回答数15) 介護保険 一部把握:7 障害福祉 悉皆で把握:1

4 市町村介護の仕事魅力発信事業の活用(回答数15) 活用予定:10

5 福祉人材の確保・定着に関する独自の修学資金や補助・助成制度

①独自制度(回答数21) 新規:1、引き続き設けている:6、設けていない:14 ②法人・団体の会員等の修学資金制度等(回答数20) 把握している:3、把握していない:17

6 優先課題と考えていること ○事業実施 △準備段階・検討中 ◆その他

処遇改善:◆市から国県への重点要望

すそ野拡大に向けた多様なアプローチ:○介護助手普及促進

介護人材確保・定着:◆包括的な介護福祉士等修学資金の創設

○「介護労働講習」の受講生の確保

◆ヘルパー確保:様々な手段で確保に向けて取り組む

△労働環境改善(週休3日制等)、△潜在介護人材へのアプローチ、△復職促進への支援制度創設

魅力発信:○若年層を対象としたSNS、△公式LINEの開設

多様な働き方の導入支援:△他部署・関係機関・団体との連携

○奨学資金支援の拡充

○就労定着緊急支援事業実施

○介護福祉士実務者研修受講費用補助、

○福祉分野の従業員の確保や定着に向けた支援

7 構成団体の新規事業 ○魅力・PR △教育・養成 □確保 ◇定着

富山県社会福祉協議会:○□公式LINE,県公式SNSとの連携

富山県介護福祉士会:△新人介護職員交流事業、認知症オンラインセミナー

介護労働安定センター:△事業所からの外国人材確保に係る相談に対応するための職員向け外国人受入れ研修

富山市:○△□◇福祉人材の育成・確保に向けた地域内連携事業(中学・高校への出張講座やワークショップ等、法人間連携プラットフォームの設置)

南砺市:◇介護福祉士実務者研修受講費用補助事業、□外国人介護人材受入れ費用補助事業、□介護のお仕事 外国人日本語教室事業

射水市:□◇市内の民間事業所に新たに採用された新卒及び潜在的有資格者等に奨励金支給、一定の勤務年数、市内に居住する者への奨励金

立山町:○立山町法人連絡会自主事業(福祉の仕事の魅力発信)

朝日町:○ちょこっと介護体験

8 人材確保・外国人介護人材確保に関する提案等

・魅力PR・確保:若年層(小中高)に向けた普及・啓発の強化、介護や高齢者と触れ合える機会づくり、様々な業種の魅力発信・体験イベントの一体的実施

・教育・普及・確保・定着:多様な主体の強みを生かした包括的な介護福祉士等修学資金の創設、外国人介護人材受入れシステムの確立、

キャリア支援・定着に向けた地域交流と国家試験対策、市町村介護人材確保プラットフォーム支援事業

・確保:業務の切り出しとスポットワーカーの活用、復職支援金(入替町)

・確保・定着:ケアマネの更新期間・費用・研修期間の見直し、富山県外国人介護人材受入れ施設環境整備事業の拡充(補助基準額や補助率引き上げ)

・定着:介護助手の普及の促進による労働環境の改善

協議内容・意見等(主なもの)

1 市町村の取組

富山市・介護労働安定センター：市内の中学生50名を対象に介護保険施設や障害者施設の職場体験実施
魚津市：新規に介護の仕事体験バスツアー実施、チラシ、校長会との連携。保護者、子どもの良い評価。中学や大人になる時の体験につなぐ
氷見市：夏休みに参加特典をつけ校長会と連携し実施。中学生にも案内。定員30人に達した。今後も小・中学校の先生と連携し継続したい
黒部市：市内で企業や看護、図書館や給食センター等の体験が出てきており、参加者が減少傾向
老施協：射水市に断片的でなく継続的な取組を提案、花のお世話を通して小中学生や保護者が施設に入るきっかけづくり
射水市：新規に福祉の人材向けの補助金開始、7月末現在、障害2名、保育士7名、介護福祉士4名、また、介護・保育士などの奨学金を外出し
砺波市：砺波福祉会の奨学資金貸与制度を紹介

・校長会や学校等との連携が強化され手応えを感じている市町村が多い
・新たな課題として様々な職業の体験イベントが増え影響が出てきている

2 魅力発信：県社協は公式LINEの開設準備中、県の公式SNSとも連携、今後、市町村や団体のSNSとも連携できると良い

3 処遇改善：県から国へは重点要望としてあげるとともに、全国知事会を通じても要望。7月に厚生労働大臣が来県時に知事より直接要望

4 人材確保・定着：

①スポットワーカー：

タイミーを活用した実証実験も取り組まれるが、人員基準やサービスの質、利用者との関係性等課題がある。富山県では聞かないが、他県ではディ等で取組がある。最初の事業所との出会いの機会として活用され継続して同じ事業所に入る例もあると聞いている。業務を切り出し介護助手の働き方としても可能性がある。課題があるから取り組まないのではなく、課題を意識しつつチャレンジし、出てきた課題を1つずつぶつけていくことが大切。

②介護助手：

介護助手を県内に普及していくには県社協の普及推進員1人では限界があり、より一層推進していくために、市町村へ普及の補助事業を創設。さらに定着への事業者支援として独自の支援事業に取り組む市あり。

③修学資金等：

県社協の修学資金等、市町村や法人等の独自の修学資金などあるが、縛りや他制度の併用ができないなどあり、せっかく制度があっても活用されていない。寄付も含め利用しやすい包括的な修学資金制度の創設の検討が必要ではないか。

④アドバンスト・エッセンシャルワーカー、介護テクノロジー：

アドバンスト・エッセンシャルワーカーは高度なスキルや専門性、ICT活用力を備えた人材をエッセンシャルワーカーと上手く融合できないかという構想で、県人材確保・活躍推進本部においても取り組み可能か検討中。介護テクノロジーは力をいれており、テクノロジー導入率90%、100%を目指し、できる限り支援していく。

⑤ケアマネの更新研修等：県単独で見直しは困難、引き続き、要件緩和に向け意見を国に伝えていく

⑥退職自衛官の福祉・介護分野への再就職支援：県社協が自衛隊富山地方協力本部と顔合わせ、具体的な連携は今後検討

⑦多様な介護人材参入促進、外国人材等のキャリア支援：

入門的研修や初任者研修、実務者研修等の実施機関、養成校等のネットワークをつくることによって、多様な介護人材の参入促進と介護福祉教育の質の向上、外国人を含む介護人材のキャリア支援が行えるのではないかと。特に外国人材の計画的な確保・定着には、在留資格「介護」をとるため国家試験合格の課題があり、介護福祉士資格取得を目標に身近なところで勉強できるシステムをつくっていかないか

⑧市町村介護人材確保プラットフォーム支援事業：

2040年にむけ「地域軸」「時間軸」で捉えていく考え方がメインになってきており、市町村段階でも協議する場があればより良いものになるのではないかと

まとめ

※ ワーキングは、県・市町村、関係団体・機関(事業者・養成校)、地域住民等がそれぞれの立場で、意見を提案、共有、連携、実施していくという考えで運営

①市町村、事業者等の発案による地域特性に応じた魅力発信の情報を共有し、加速していく

②より活用しやすい包括的な修学資金にむけ、現在制度をもっている市町村や法人関係者で実現可能性も含め任意の検討チームをつくらせないか

③スポットワーカーへの取組は課題検証を行い、将来的にはより良い導入に向け簡単な受入れマニュアルを作成していかないか

④多様な介護人材参入促進、外国人材等のキャリア支援を目指し、国家試験制度が変わることもきっかけに教育関係者のネットワークがつくらせないか

⑤介護テクノロジーに力をいれ働く場の魅力を高めている本県で、介護福祉士になりたいと思った若者にとって魅力的な学びの場をつくらせないか